

広報

1988 9/1

NO. 186

発行所 小須戸町役場行政課

印刷所 有限会社 玉庭印刷所

# とすと



まったり太鼓の音、花火、帰郷の人々、こんな夏のさわめきが過ぎて、「涼しくなりたいわー」

こんな会話が聞かれる営みの中で、つかの間の静寂が過ぎると忙しき実りの秋へと舞台が変わっていきます。

刈田が広がり、ヌスキが風にゆれ、赤とんぼが舞い、夕日が赤彦山に沈んでいく。

この町で生まれて育った者にとっては何となくの風景ですが、町から離れて働いている人々にとっては心のフィールドに焼きついた故郷の写真かもしれません。

昨年の作物は、「〇六」の月、平均収量は五七八kg、作価面積は六〇六ヘクタールでした。今年は七月の低温が心配されます。昨年と比べ農作となるよう頑張りたいと思います。当町でも、クルメ指向の中でコンゴカリ等のうまみ米作りの傾向が強まっているようです。こんな米作りも信濃川の水をまじり田圃風景の中で育ち、豊かになりたくてくれます。日本一の「ムスカシ」毎日健康とした食生活の心を感謝いたします。

## 人口のうごき

(63. 7. 31現在)

男	5,003	(-3)
女	5,471	(-5)
計	10,474	(-8)
世帯数	2,528	(±0)